

日本・台湾・韓国

第8回特別支援教育実践研究会



日時 平成25年8月18日(日)・19日(月)、9:30～

場所 北海道教育大学札幌駅前サテライト

主催 特別支援教育実践研究会日本支部

共催 北海道教育大学

ご挨拶

第8回日本・台湾・韓国における特別支援教育実践研究会が当地札幌で開催されることを心よりお祝い申し上げます。

現在、わが国では、児童生徒の学力向上が大きな話題となっていますが、それと同時に、特別支援教育の充実も重要な課題として論議されています。特に、特別支援教育においては、新しい制度に変わってから日が浅く、特別支援教育の基本的な理念がやっと理解されようとしている段階といえます。それだけに、特別な教育的ニーズとは何なのか、また一人ひとりのニーズに応えるにはどうすればよいのか等の具体的な議論が望まれています。

特別支援教育は『教育の原点である』と言われておりますが、子ども一人ひとりの実態をしっかりと把握し、それぞれの教育的ニーズに対応するというのは、教育の理想であります。わが国の伝統的な教育は、「忍耐」を美徳の一つとして、集団教育における『統制』を大きな教育目標としてきた経緯があります。嫌だと思っても嫌と言わず、黙って我慢できることを成長と捉え、その一方で、主張しようとする者は上から押さえつけ、「みんな一緒」といった全体主義的な側面が強調されてきました。しかし今は、「豊かに生きる」ことは、生活のあらゆる事項を自ら考え、自ら選択し、自ら決定することであると言われていています。その意味で、伝統的な我が国の教育のあり方が大きな岐路に立たされていると言えます。是非とも、特別支援教育という視点から、未来に向けた教育のありようについて議論深めていただければと思います。

本研究会では、日本と台湾及び韓国の特別支援教育の専門家が集まると聞いております。それぞれの国の文化的背景や諸事情を理解した上で、互いに良い点を学び合い、実り多い研究会となることを祈念いたします。

北海道教育大学副学長 渡部 英昭

日本・台湾・韓国 特別支援教育実践研究会スケジュール

【 8 月 18 日（日） 】

時間	演題・発表者	その他
9:30~	受付開始	
9:50~	開会式（挨拶・趣旨説明）	
10:00~	シンポ「日本・台湾・韓国における特別支援教育の現状と課題」 司会 青山真二（北海道教育大学） 話題提供 1 小野寺基史（北海道教育大学） 話題提供 2 藍 瑋琛（台北市立教育大学） 話題提供 3 朴華文（大邱大学校）	通訳～邱先生 陳さん
12:00~	昼食	
13:10~	発表 1 「拒否カードを用いた自閉症児の選択行動の形成」 発表者 久蔵（札幌市立新川小学校）	通訳～陳さん
13:50~	発表 2 「自閉症者に対する動作法と遊戯活動の衝動抑制効果についての事例研究」 発表者 詹炳松（財団法人伊甸社會福祉基金会経営内政部宜蘭教養院）	通訳～邱先生
14:30~	発表 3 「自閉症者に対する動作法と遊戯活動の動機付け効果についての事例研究」 発表者 王元庭（財団法人伊甸社會福祉基金会経営内政部宜蘭教養院）	通訳～邱先生
15:10~	休憩	
15:20~	発表 4 「自閉症児におけるコミュニケーション訓練効果について」 発表者 藍 瑋琛（台北市立教育大学）	通訳～邱先生
16:00~	発表 5 「小学校特別支援教育コーディネーターの役割における連絡・調整機能に関する考察」 発表者 村田敏彰（恵庭市立柏小学校）	通訳～陳さん
16:40~	終了・懇親会場への移動	
17:30~	懇親会	

【 8 月 19 日（月） 】

時間	演題・発表者	その他
9:00~	受付開始	
9:10~	発表 6 「ことばの発達に遅れを持つ幼児の母親支援について」 発表者 和地節・大森貞子・芳賀由紀子（北茨城市教育委員会幼児教育相談室）	通訳～陳さん
9:50~	発表 7 「障害児を持つ、外人妻のファミリーに対するホームサポートシステムの構築」 発表者 張倉凱（来春教育基金）	通訳～邱先生
10:30~	休憩	
10:40~	発表 8 「就学相談の必要性に関する一考察～A 市教育委員会の取り組みを通して」 発表者 大塚千恵子（滋慶学生サポートセンター）	通訳～陳さん
11:20~	発表 9 「漢字の読みが苦手な生徒への長所活用型指導について」 発表者 五十嵐靖夫（北海道教育大学）	通訳～陳さん
12:00~	研究発表終了・昼食	
13:10~	施設見学 13:10 紀伊国屋書店前出発 13:50~14:10 「北海道教育大学附属小中学校特別支援学級」 見学 14:50~15:10 「北海道小樽高等支援学校」 見学 15:50~16:10 「札幌市立中央小学校通級学級」 見学 16:20 札幌駅解散	

日本・台湾・韩国 特殊需要教育研究协会时间表

【 8 月 18 日（日）】

时间	标题主持人	其他
9:30~	开始接受	
9:50~	开幕式（问候目的描述）	
10:00~	研讨会「日本、台湾、韩国特殊教育的现状以及问题」 主持人 青山真二（北海道教育大学） 日本发言人 小野寺基史（北海道教育大学教职大学院） 台湾发言人 蓝玮琛（台北市里教育大学） 韩国发言人 朴華文（大邱大学校）	解释～邱先生 陈女士
12:00~	午餐	
13:10~	公告 1 「自闭症儿童通过使用拒绝卡而形成的选择行为」 主讲人 久藏 幸生（札幌市立新川小学）	解释～陈女士
13:50~	公告 2 「動作法及遊戲活動抑制自閉症者衝動行為的效果研究」 主讲人 詹炳松（財團法人伊甸社會福利基金會辦理內政部宜蘭教養院）	解释～邱先生
14:30~	公告 3 「動作法及遊戲活動誘發自閉症者的動機效果研究」 主讲人 王元庭（財團法人伊甸社會福利基金會辦理內政部宜蘭教養院）	解释～邱先生
15:10~	休息	
15:20~	公告 4 「關於自閉症兒童的溝通訓練效果」 主讲人 藍 瑋琛（台北市立教育大學）	解释～邱先生
16:00~	公告 5 「对小学特别支援教育协调员的联络、协调功能的考察」 主讲人 村田敏彰（惠庭市立柏小学）	解释～陈女士
16:40~	结束、移动到接待场所	
17:30~	聚会	

【 8 月 19 日（月）】

时间	标题主持人	其他
9:00~	开始接受	
9:10~	公告 6 「对于语言能力发育比较缓慢儿童的母亲进行的支援 一到幼儿园・保育园・保育所进行巡回访问」 主讲人 和地节、大森真子、芳贺由纪子（茨城县北茨城市教育委员会幼儿教育资讯室）	解释～陈女士
9:50~	公告 7 「新住民家庭身心障礙子女之家庭支持系統建構之研究」 主讲人 張倉凱（來春教育基金會）	解释～邱先生
10:30~	休息	
10:40~	公告 8 「对入学咨询必要性的调查—通过 A 市教育委员会的配合—」 主讲人 大塚千恵子（滋庆学生支援中心）	解释～陈女士
11:20~	公告 9 「针对不擅长汉字学生的优点活用指导」 主讲人 五十嵐 靖夫（北海道教育大学函馆校）	解释～陈女士
12:00~	研究宣布结束、午餐	
13:10~	旅游设施 13:10 紀伊国屋書店前出発 13:50~14:10 「北海道教育大学附属小中学校特別支援学級」 見学 14:50~15:10 「北海道小樽高等支援学校」 見学 15:50~16:10 「札幌市立中央小学校通級学級」 見学 16:20 札幌駅解散	

日本・台湾・韓国における特別支援教育の現状と課題

司会	青山眞二（北海道教育大学）
日本シンポジスト	小野寺基史（北海道教育大学教職大学院）
台湾シンポジスト	藍瑋琛（台北市立教育大学）
韓国シンポジスト	朴華文（大邱大学校）

<提言1> ライフステージをつなぐ一貫した支援 ～「支援ファイル」の取り組み～（小野寺基史）

文部科学省は2008年、厚生労働省と連携しながら、発達障害児の乳幼児期から成人期に至るまでの一貫した支援を目指して、「相談支援ファイル」の活用を提案した。これは、発達障害を支援する支援機関の情報が「支援ファイル」を通して共有化され、将来にわたって引き継がれるというものであり、その蓄積された「支援ファイル」の情報管理は保護者の手によって行われるというものである。

札幌市では、この「支援ファイル」の考え方に基づき、2004年度から「まなびの手帳」を作成・配付している。今回は、この「支援ファイル」が作成されるに至った経緯、ねらい、内容、成果と課題等について報告する。

1 「支援ファイル」作成の経緯

- ①それぞれの支援機関に行くたびに、何度も同じ情報を提供しなければならない（情報がつながっていない）
- ②支援内容が他の支援機関に共有化されていない。
- ③個人情報本人および保護者のものになっていない。（情報開示請求が複雑で時間がかかる）
- ④必要な情報が整理されておらず、別々のファイルに綴じられていたり、紛失したりしている。
- ⑤本人を取り巻く支援者の関係図（サポート地図）が明らかになっていない。

2 「支援ファイル」のねらい

- ①一貫した支援の推進（縦軸と横軸のネットワーク）
- ②支援のための最も基本的な情報収集ファイル
- ③情報の共有、保持、本人及び保護者の情報管理

- ④保護者の外部説明の援助
- ⑤支援者の責任ある対応（サポート地図と支援者の公開）

3 「支援ファイル」作成にあたっての留意点

- ①「支援ファイル」は、目的ではなく手段である。
- ②フォームの内容は必要最小量（ミニマムエッセンシャルズ）
- ③あくまでも、本人と保護者が活用することを原則とする。
- ④支援者同士の顔が見えるようにする（説明責任）
- ⑤「支援ファイル」は「個別の指導計画」であり、それが「個別の支援計画」へつながっていく。

4 支援ファイルの内容

- ①フェイスシート：子どもの基本情報
- ②ヒストリーシート：関係機関の相談記録、手帳の交付の状況、福祉サービスの利用状況等
- ③サポートシート：支援計画の作成（長期目標、短期目標）
- ④オプションシート：引き継ぎ、関係機関との連絡、就労に関わる記録等必要に応じて

5 保護者の感想

- ・一生を通じて支援を受けるためのパスポートの役割になっています。基礎年金や就労申し立ての際にもとても役立つことがわかりました。
- ・成長に関する資料はすべて「学びの手帳」に集めています。片付けの苦手な私にとっては一冊にまとまる有り難い「手帳」です。伝えたい事や質問ももれなく伝えられ、時間短縮になります。
- ・必要な箇所は担任の先生にすべてコピーし、先生にも記入して頂いています。学校で取り組んでいる事や家で取り組んでいることが共有化され、取

り組みが深まっています。

- ・手帳を整理してみて、辛いことって長くは続かないんだと思いました。普段は生活だけで精一杯だけど、手帳を見るたびに大事な娘の幸せを主人も私も強く願っていること、そのために家族が頑張っていることを再認識することができました。

<提言 2>台湾の特別支援教育の現状と課題

(藍 瑋琛)

台湾の特別支援教育における現状と課題について、次のように二部分に分けて論述する。

1. 台湾の特別支援教育の現状について。
2. 台湾の特別支援教育の課題について。

特別支援教育の現状について

1. 行政改革

特殊教育の主管機関在中央は教育部；在地方は県と市の政府的教育局（處）。2013 年教育部の改革により、特殊教育の管理権は、特殊教育小組を解散し、新しい学生事務及び特殊教育司と国教署原住民與少數族群及特殊教育組を開設した。学務特教司は特殊教育政策規劃、法規研修及び大学特殊教育仕事の推進、監督；國教署の特殊教育組は、高級中等以下学校特殊教育事項の企画、補助金及び監督。

2. 特別支援教育の学級と人数

幼稚部・小学・中学・高校・大学など五つの段階に分けて、高校以下の特別支援教育について、集中式特殊学級・リソース式学級・巡回式学級の三つのタイプで行う。集中式特殊学級は 1672 学級、リソース式学級は 2259 学級、巡回式学級は 503 学級、総計 4434 学級であった。近年心身障害特別支援学級が増えつつあり、その内リソース式学級が一番増加した。今、特別支援学校は 28 校で、計 688 学級；学生数は 6715 人であった。

高等学校以下の心身障害学生の男女比について、女性より男性の方が著しく多い。その内自閉症（86.8%）、情緒行動障害（85.1%）、学習障害（71.3%）及び言語障害（70.3%）等が見られた（参考 2011 年度教育年報）。

3. 特別支援教育教員の養成

教員免許のコースは主に師範大学或いは教育大学特殊教育学科（13 箇所）などで行い、総合大学も特別支援教育教員コースを設立することができる。高校以下の特別支援教育教職員は、免許つき正式編制者約 9 割であった。

4. 特別支援教育予算

中央政府は年度教育予算の 4.5%、地方政府は年度教育予算の 5%以上でなければいけない。

特別支援教育の課題について

1. オンラインネットワーク

情報公開と支援情報の共有のために、教育部からオンラインネットワークを開設し、教育部の特殊支援の諮詢會議・鑑輔會議・特殊教育支援センター・心身障害学生 AT センター・特殊教育通報ネット・特殊教育オンラインリソースセンタ・大学特殊教育センターなど。ゆえに心身障害学生の IEP の作成と特別支援関連リソースの連携は、ネットワークで行うことができるように。

2. 高校以下の特殊教育評価

評価は、三つのタイプで行う。

- (1) 学校レベルの評価
- (2) 特別支援学級レベルの評価
- (3) 主題別の評価。

3. 特別支援教育のサービス

- (1) インテグレーション。
- (2) 参与と学習機会。
- (3) IEP は team-work で行う。



韓国における特殊教育教師 の養成体制と教育工学

朴 華 文
(大邱大学校)

目 次

I. 特殊教育教師の養成基準

II. 特殊教育教師の免許制度

III. 大邱大学校特殊教育科及び教育課程の紹介

IV. 特殊教育の質の向上のための教師の専門性向上

V. 特殊教育工学

特殊教育教師の養成課程基準

学校教育力の向上のための教員養成体制の改善案

教育人的資源部(2006)

- 基準1 教師は、健全な人格、教職使命感、倫理意識をもつ。
- 基準2 教師は、学生の学習と福祉のために努める。
- 基準3 教師は、学生の学習及び発達について理解する。
- 基準4 教師は、教科に関する専門知識をもつ。
- 基準5 教師は、教科、学生、教育状況に適切な教育課程を開発・運営する。

特殊教育教師の養成課程基準

基準6 教師は、授業を効果的に計画・運営する。

基準7 教師は、学生の学習を観察・評価する。

基準8 教師は、学習を支援する環境と文化を提供する。

基準9 教師は、教育共同体の構成員達と協力関係を構築する。

基準10 教師は、専門性を高めるためにつねに努力する。

特殊教育教師の免許表記の変遷

年度	免許表記の類型
1970-1977	小：特殊学校教師(盲・聾) 中：特殊学校教師(盲・聾) + (一般中等教科目) ※ 中等学校2級正教師(特殊教育)副専攻英語
1978-1981	小：特殊学校教師(盲・聾・知的障害・肢体不自由) 中：特殊学校教師(盲・聾・知的障害・肢体不自由) + (一般中等教科目) 特殊学校教師 特殊学校教師 副専攻(一般中等教科目)
1982-1985	特殊学校教師 特殊学校教師 副専攻(一般中等教科目) 特殊学校教師(盲・聾・知的障害・肢体不自由) + (一般中等教科目) 小：特殊学校教師(盲・聾・知的障害・肢体不自由) 中：特殊学校教師(一般教科目)+(盲・聾・知的障害・肢体不自由)

特殊教育教師の免許表記の変遷

年度	免許表記の類型
1986-1999	小：特殊学校教師(盲・聾・知的障害・肢体不自由) 中：特殊学校教師(一般教科目)+(盲・聾・知的障害・肢体不自由)
2000-現在	小：特殊学校教師 中：特殊学校教師(一般中等教科目)

<出展> 김병하 외(1997), 특수학교 교사양성체제 개선방안. 국립특수교육원, p.19.

特殊学校教師の資格基準

正教師 1級

1. 特殊学校正教師(2級)免許を保有し、3年以上の教職経験がある者として所定の再教育を受けた者
2. 特殊学校正教師(2級)免許を保有し、1年以上の教職経験がある者として教育大学院または、教育部長官が指定する大学院で特殊教育を専攻して修士学位を取得した者
3. 幼稚園・小学校または、中等学校正教師(2級)免許を保有し、1年以上の教職経験がある者として教育大学院または、教育部長官が指定する大学院で特殊教育を専攻して修士学位を取得した者

特殊学校教師の資格基準

正教師 1級

- 1.教育大学及び師範大学特殊教育科を卒業した者
- 2.大学の特殊教育関連学科の卒業者として、在学中に所定の教職課程を履修した者
- 3.幼稚園・小学校または、中等学校正教師(2級)資格証を保有し、必要な補修教育を受けた者
- 4.幼稚園・小学校または、中等学校正教師(2級)資格証を保有し、教育大学院または教育部長官が指定する大学院で特殊教育を専攻して修士学位を取得した者
- 5.特殊学校準教師免許を保有し、2年以上の教職経験がある者として所定の再教育を受けた者
- 6.幼稚園・小学校または、中等学校準教師(2級)免許を保有し、2年以上の教職経験がある者として教育大学院または教育部長官が指定する大学院で特殊教育を専攻して修士学位を取得した者

特殊学校教師の資格基準

準教師

1. 特殊学校準教師資格検証に合格した者

職業 教師

1. 特殊学校正教師、準教師または実技教師の資格がある者として、次に該当する者
 - 1)「国家技術資格法」第3条の規定により、技術分野、あるいは機能分野の技術免許を取得した者
 - 2)「勤労者職業訓練促進法」第9条の規定により、職業能力開発訓練教師免許を有している者
 - 3)大学院において職業リハビリに関する学問を専攻して修士学位を取得した者
2. 大学において職業リハビリに関する分野を専攻した教員

教育課程の履修

1. 卒業の単位: 140単位以上
2. 教養教科の履修単位: 23の単位以上
(共通教養: 14単位, 基本教養: 9単位)
3. 専攻教科の履修単位
 - ・単一専攻: 69単位以上
 - ・複数専攻: 51単位以上
 - ・富専攻 : 21単位以上

特殊教育教育課程の編成表

学年	学期	教科区分	教科目	単位	時間			備考
					理論	実習	設計	
1	1	専選	障害・文化・教育	3	3	0	0	
	2	専必	現場特殊教育の理解	3	3	0	0	現場実習
		専選	障害発達心理学	3	3	0	0	
2	1	専選	知的障害児教育	3	3	0	0	
			肢体不自由児教育	3	3	0	0	
			特殊教育工学	3	3	0	0	
			特殊教育学	3	3	0	0	
			行動修正	3	3	0	0	
	2	専必	特殊教育現場実習	2	0	4	0	
		専選	歩行訓練	3	3	0	0	
			視覚障害児教育	3	3	0	0	
			障害者リハビリ及び福祉	3	3	0	0	
			聴覚障害児教育	3	3	0	0	
			特殊学校教育課程論	3	3	0	0	
			学習障害児教育	3	3	0	0	